

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091300030		
法人名	サンコーケアライフ株式会社		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	福岡県福岡市城南区樋井川1-7-38 (電話) 092-873-8354		
自己評価作成日	平成 29 年 4 月 21 日	評価結果確定日	平成 29 年 7 月 19 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様に楽しんで頂けるよう、レクリレーションや行事を活発に行っています。植物園、海、花見や外食など外出も多く取り入れ、喜んでいただいています。また、地域との交流も活発に行っており、地域の夏祭り、餅つき、ふれあいサロンに参加させていただいています。施設の祭りに地域の方をお招きしたり、運営推進会議には、自治会長さんを始め民生委員さんなど各委員さん、ご近所の方、ご家族と多数参加していただき交流を深めています。ご家族とも、密にお話をするように心がけており信頼関係を築いています。入居者様とはコミュニケーションをしっかりとって関わっていき、「思い」「願い」を介護計画に反映してしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 5 月 17 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は幹線道路からわずかに入りこんだ静かな住宅地に位置し、公共交通機関の沿線にある。事業所は2階建てで1ユニットずつあり、玄関には季節を彩る飾りが置かれ、リビングも落ち着いた家庭的な空間となっている。日常的に地域との関りが積極的に行われ、職員の協力体制や連携が利用者に安心の場を提供している。職員は常に利用者の心身状況の把握、支援方法、利用者の尊厳ある営みへの支援に努めている。この精神は「重度化・終末期のケアの指針」とその具現化にも反映されており、事業所全体でサービスの向上に前向きに取り組んでいることが伺える。事業所の利用者に寄り添った支援に加え、今後、法や制度への視点をもう少し考慮していくことで、質の更なる向上が期待できる。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【 I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心と心を寄せ合い、共に生きる喜びを分かち合う」という事業所の理念は、常に目に見えるところにあり、共有しそれに基づいた介護を実践している。	事業所には独自の運営理念が掲げられており、玄関やフロアに掲示されている。職員の理念への意識付けや確認もお互いにされており、利用者に寄り添った細やかな個別対応や地域と積極的に交流するなど、理念への取組みがなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎月、地域の方が参加されているふれあいサロンや、町内の夏祭り、餅つき、清掃活動などに参加し、交流の場となっている。また、中学生や高校生の職場体験の受け入れも行っており、入居者との交流が図れるようにしている。今年は、近隣の保育園と初の交流会を行った。	職員は利用者と共に毎月の地域行事であるふれあいサロンや清掃活動にも参加して、地域の方が気軽に立ち寄れる関係になるよう努めている。また、中高生の職場体験学習の受け入れや、保育園との交流も行い、地域と良好な関係が築かれている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催されている行事には、出来るだけ参加し、職員と入居者とのかわり方を見て頂いている。また、運営推進会議には、地域の方に多く参加していただき、日常生活や実情を見て頂いている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方、包括センターの方にも参加していただき、施設での取り組みや、勉強会、研修会の報告など行い、ご意見や提案を聞きサービス向上に努めている。	会議は2か月に1回開催され、参加者は利用者、家族、地域包括支援センター、自治会長、民生委員の他、町内の役員、保育園園長や近所の方が参加している。会議では事業所側が行事や利用者の状況を報告し、これらの報告に対し、出席者から意見や提案が出されることもあり、可能な限り運営に活かすように努めている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内を送り参加していただくようにしている。家族からの問い合わせや質問は、その都度質問し、問題解決するようにしている。包括センターにはなるべく毎月出向き、施設の新聞をお渡しし実情を伝えるようにしている。	地域包括支援センターにすずらんだよりを持参したり、市へ車いすの購入や設置に関して相談したりしている。また、普段から課題に関して一緒に解決していこうとする連携体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員による呼びかけや勉強会、ポスターを貼ることで、身体的なことだけでなく言葉による拘束についての意識も常に持つようにし、介護を行っている。	日中、玄関に鍵はかかっておらず、特に外出傾向が強い利用者には、職員が付き添っている。家族からの要望により短時間ではあるが車いすのベルトが使用されている。身体拘束しないケアを目指して、内部、外部研修の機会を設け、職員の意識付けも行っている。	家族から要望があった場合でも、弊害を説明し、事業所の工夫や取組方針を示し、家族の納得の上、圧迫感のない暮らしの支援が必要です。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に社内外での研修を行い、虐待に対する危機感を持ち、お互いに笑顔で過ごせるような雰囲気づくりを意識している。管理者は、職員の体調管理に努め、ゆとりのある介護を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修に参加し、通常より制度に関する資料を読むなど知識を得るように努めている。家族からの質問に答えられるよう準備している。	権利擁護に関する制度については、契約時の他、必要に応じて家族に説明をしている。年に一回、全職員を対象に研修が行われており、職員は誰もが家族からの質問に答えられるよう教育、準備されており、資料も整備している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書、重要事項説明書を丁寧に説明し、入居前の本人や家族の感じる疑問や質問について十分に納得し、理解していただき不安が少なく安心していただけるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話でお話をする中で、現状に対する思いに気づいたり、ご意見、要望があれば、すぐに話し合い、支援に反映させるようにしている。また、ご意見箱の設置を行い、職員の方からも声掛けを行い、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。	利用者からの要望には、その都度、対応している。家族の訪問時は利用者の状況報告をし、お茶を出すなど、家族からの要望が出やすいように工夫している。家族から出された要望は、利用者のケアや運営に積極的に取り入れるようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を行い、現状の報告や、提案や意見を交換できる機会を設けている。また、それを、管理者は業務会議で代表者に報告し、運営に反映させるように努めている。	管理者は、ミーティングの他、折に触れて職員から意見を聞くようにしており、誰もが自分の意見を言いやすいように工夫している。行事の企画についての提案や、パソコンの買い替えの要望、勤務シフトや休暇の希望などがあり、事業所は職員の意見が反映できるよう努めている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が学んでみたいと受講を希望した研修は、費用は会社が負担し、勤務扱いとなっている。また、残業時間を減らし、職員の身体的負担にならないよう協力して職務にあたる職場環境に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職印の募集・採用は、経歴・経歴を参考とするが、年齢・性別を理由に採用対象から排除することはない。働いている職員についても、一人一人の考え方や行動を尊重し、意見が食い違っても話し合う時間を作ることで個々の能力や経験を生かせるような職場環境を目指している。	職員の募集や採用にあたっては、年齢や性別を不採用条件にしていない。採用後は個性を尊重し、能力が発揮できるような役割りを心掛け、キャリアアップへの援助もなされている。資格取得のために休暇や勤務シフトを配慮し、研修費用の援助など、職員が働きやすい職場環境を作っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内外で開催している人権に関する勉強会や研修に参加する機会を作っている。また、DVDや資料を見て、常に人権に対する意識をもって行動できるよう、教育・啓発に取り組んでいる。	内部研修は全ての職員を対象とし、DVDを用いて、高齢者や虐待に対する人権についての研修を行うなど、人権教育の機会を確保している。また各職員は報告書を作成することにより、基本的人権の尊重について意識を高めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修や社内の勉強会、講師を招いての研修など、職員の育成に取り組んでいる。また、職員間で積極的に情報交換を行いながら、個々の考え方や能力を知りつつ、お互い成長し技術や知識を身につけていけるよう支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会で知り合った同業者の職場を訪問し、取り組んでいるサービスを参考にして取り入れたり、交流会へ参加し情報交換を行ったりしている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人に面談し、要望や思いを聞いて寄り添い、安心の気持ちを持っていただき、信頼関係を築くように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族より、要望や意見、心配なことなどを十分に聞き、信頼関係を築いていきサービスプランに反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に、生活状況を聞くことにより実情を把握し、どのような支援が必要か見極め対応するように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活と一緒に過ごし、本人の個性や力を尊重し、役割をもってもらうようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係を大事に考え、本人の変化や発見を家族に報告し、家族と協力しながら一緒に本人を支えていけるような関係を築いていくようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にお付き合いのあった方々の面会を受け入れ、手紙や年賀状出したり、電話で話してもらったりと関係が途切れないように支援している。	職員は、利用者や家族から馴染みの人や場所について情報を聴取し、把握に努めている。友人の訪問を受け入れたり、年賀状を書く支援や、家族と馴染みの美容院、デパートに外出する際はその準備を手伝うなど、利用者の馴染みの関係の継続を支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分からコミュニケーションがとりにくい入居者には、間に職員が入り会話や歌をみんなで歌ったり、共に一緒に過ごせるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者の家族から連絡をいただいたり、訪問していただくことがあり、必要に応じて、相談や支援に努めるようにしている。退居された後でも、家族が気軽に連絡をしてくれるような関係性を作るようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いを口にできない入居者には様子や日常生活の中から把握するようにしており、全職員で情報を共有している。	職員は日々の関わりの中で、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。意思疎通が困難な利用者は、家族や関係者から情報を得るようにしているが、利用者自身の反応で意思を押し測り確認している。昔の楽しみに限らず新たな生きがいを見出すことも多々ある。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報等からフェースシートを作成し、生活歴や生活環境を把握している。また、日常生活の関わりの中で接していくことでより詳しく把握するように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の毎日の様子を観察し、毎日の申し送り、職員会議、ケアカンファレンスや関わり等で、全職員が現況を把握できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等やケアカンファレンスで、密に話し合い、意見を出し合い、本人が、よりよく暮らすためのニーズや課題を検討し、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	介護計画は、担当者が利用者本人の思いや願い・家族の意向や、日々の生活の中から見出した気づきを基に、一人ひとりのその時点に沿った個別計画を作成している。職員全員の意見や主治医、看護師等の意見を反映し本人本位の計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子や、職員のケアの実践状況を具体的に記録し、全職員で共有するようにしている。その情報により、よりよい介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月ごとの行事はもとより、前庭での足湯や、バーベキュー、花火大会、そうめん流しなど、柔軟なサービスに取り組んでいる。また、通院や外食、買い物、ドライブなど、一人一人のニーズにも対応しながら、多機能なサービスに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事（餅つき・祭り・清掃・ふれあいサロン等）に参加させていただき、親睦を深めている。今年初めて近隣の保育園にアプローチし、交流会を開いていただき園児さんと楽しいひと時を持つことができた。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人や家族と相談し、希望を聞いてかかりつけ医を決めている。受診は要望をきき、出来る限り職員が同行している。職員は、「気づき」を大切にし変化があったときは職員間で共有し、情報をかかりつけ医に報告している。週1回の訪問看護も入りかかりつけ医・訪問・ホームと情報の共有を行っている。	利用開始時に、今までの受診状況を確認し、家族と受診時の通院介助方法や情報の伝達方法を話し合い連携を図っている。入居後のかかりつけ医は希望する医療機関としている。受診時は日々のバイタルデータを持参し、家族が通院介助する場合にはそのデータを渡して、職員・家族・医療機関が情報を共有している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、バイタルチェックを行い、些細な変化も見逃さないように観察し、訪問看護師に報告、相談して重篤にならないように努めている。また、かかりつけ医にも早急に相談し適切に受診できるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人や家族から、早めの退院の相談を受けることが多い。お見舞い等に出かけた時に病院関係者と出来るだけ面談し情報交換や退院に向けての相談をし、早期の退院の支援をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方についてはの方針は、契約時に家族に説明し、家族間で相談の上同意書を書いてもらっている。看取り介護を2年前から行っており、家族から看取りの相談を受けた時には、かぞく・かかりつけ医・職員で話し合い、連携を取って取り組むようにしている。	重度化や終末期における対応方法は利用開始時に説明している。その後も折に触れ説明している。看取り開始は、利用者や家族の意向を大切に、本人・家族・かかりつけ医・職員で話し合い、合意のうえ全員で方針を共有し支援している。それぞれが役割分担し、本人や家族の思いに沿った支援に努めている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の日ごりの健康状態を職員が把握し特変にすぐに気づくようにしており、緊急時の連絡、応急処置などの初期対応を、慌てずに行えるように勉強会や研修、訓練を定期的に行っている。緊急対応マニュアルを常に目の届くところに置いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、職員、入居者が共同して避難訓練を実施しており、安全に誘導できるように訓練している。消火器や警報装置の使い方や、設置場所、避難経路の確認も同時に行っている。ふれあいサロンでの防災の話をきき、簡易トイレの作り方など参考にしている。食料、飲料水もホーム内に備蓄している。	各種災害のマニュアルを作成している。非常用備品はそれぞれのユニット内で保管し、その場所や内容は全ての職員が把握している。年に2回避難訓練し、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけている。訓練の際は、地域住民へ参加の声かけを行っている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声掛けをしている。本人が望めば、居室でゆっくりと過ごしてもらっている。人権の勉強会も実施し、職員研修をしている。	職員は利用者の誇りやプライバシーに配慮している。急な対応が必要になった際も声かけや場所等に配慮している。他の家族や外来者に対し本人のプライバシーを話さないことを徹底している。職員の意識向上のために外部研修や伝達講習を実施している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中から、表情等で何を望んでいるかを注意深く読み取るようにしている。入居者、一人一人に担当職員がついており、声掛けやスキンシップから希望や思いを読み取り、職員全員で共有し、本人が自己決定できるように心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に合わせ食事や休憩をしてもらっている。その日の気分、状態にあった無理のない生活が送れるように職員間で情報交換し、行事等あっても個々のペースに合わせて参加してもらっている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持っている服や会話から好みを把握し、可能であれば、家族に相談し外出時に本人に選んでもらって洋服を買ったりしている。散髪は訪問理美容を利用し、その時に合った洋服を選び、季節に合わせた身だしなみができるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回の行事食では、見た目や季節感を味わって貰っている。誕生日などには外食にお連れし、好きな物を選んで貰って楽しんでもらえるよう支援している。「手作りおやつ」では目の前で調理して食べて貰ったり、手伝ってもらっている。	食事は楽しみな時間となるよう工夫されている。テレビを消し穏やかな音楽を流し、利用者と職員と一緒に食事を味わっている。月に1度の給食会議で利用者の嗜好や食事の形態等話し合っている。家庭菜園の野菜を収穫して調理したり、一緒におやつ作りを楽しんでいる。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー計算されており栄養バランスを考えている。個々の状態に合わせ、キザミ食、ミキサー食、軟飯と工夫し、水分もトロミをつけたり、薬のみで飲んでもらったりと工夫している。摂取量は記録し把握している。水分は好みの飲み物を用意したりして単分摂取に心がけている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後誘導し実施している。できるだけ本人に磨いてもらい、仕上げを職員が行うかチェックをしている。その方の状態に合わせ、スポンジブラシを使用したり、洗口液を使用したりしている。週1回のポリデント消毒をし、口腔衛生を保っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態を見ながら、二人介助等、出来るだけトイレでの排泄を心掛けている。一人一人の排泄パターンを記録等から把握し、夜間おむつの方も日中はリハパン等で対応し、声掛け、誘導にて失禁をなくすように支援している。	トイレでの排泄にこだわり、定期・随時の排泄介助や個別の排泄パターンに沿った誘導や支援を行っている。排泄時はプライバシーに配慮し、失敗しても手早く周囲に気づかれない等配慮している。おむつやパットを工夫し、利用者一人ひとりに沿った支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホットパックで腹部を温めたり、室内歩行や運動の働きかけをしている。また、手作りおやつで芋など繊維質の多い食材を取り入れている。入居者の好みの飲み物を用意し、水分補給を行う様に心がけている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴の拒否のある方にもタイミングや声掛けに工夫をし、ゆず湯や菖蒲湯などで楽しくスムーズに入浴できるように心がけている。無理に勧めることはせず、その方に合わせて、二人介助を行ったりしている。	入浴は無理強いせず楽しみな時間になるよう、ゆず湯や菖蒲湯等を行っている。利用者に負担がかからない限り二人介助で事業所での入浴を行っている。入浴を拒否される場合にも声かけに工夫し、気持ちよく入浴できるよう工夫している。庭にビニールプールを設置し、足浴やマッサージを楽しみの一つとして行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に留意し、居室で休憩して貰ったり、ソファで落ち着く方はソファで横になってもらったりしている。生活習慣を把握し、その方の希望に沿う様に支援している。足や体を温めたりして、安眠できるように心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法、用量については医師や看護師等に聞いたりして理解し、正しい服薬ができるように努めている。誤薬に注意し、服薬前には名前・日付を声を出して確認している。状態の経過や変化は記録に取りかかりつけ医に相談、報告をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のケアに努め、好きなことや趣味を引き出し、それを活かして日常生活に取り入れるように努めている。生活歴から、役割を持つことで安心される方には、役割や仕事をもって、張り合いのある日々を過ごしてもらえるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回のふれあいサロンや地域の行事に参加できるようにしている。買い物や外食などできるだけ本人の希望に沿い楽しんでもらえるように支援している。また、植物園や海やドライブなど普段なかなか行けないようなところにも行き楽しんでもらえるように努めている。	時間が許す限り外出するようにしている。近隣住民とも顔なじみの関係ができています。植物園・海・花見等利用者の意向に沿った外出を心がけ、外食の頻度も高い。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない方がほとんどなため、管理者が預かっているが、管理が出来、本人の希望があれば家族と相談しながら、本人所持で使用してもらう様に考えている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話があれば出してもらい、面会があれば受け入れている。本人の希望で電話をしたいときは、していただくようにしている。また、年賀状のやり取りを職員と一緒にしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の価値観を大切に共同スペースには季節を感じられる掲示物を貼っている。入居者が切ったり塗ったりした作品も展示している。	共有の空間は家庭的で利用者一人ひとりが居心地よい配置となっている。室内は明るくカーテンで光の強さを調節している。トレイの場所はわかりやすく示され、日常生活上の混乱は起きないようにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが気に入った場所に座って気の合った入居者と話したり、共同空間の中でも、その時々で気分が場所を変ったりと、出来るだけ思い思いに過ごしてもらっている。また、一人でも落ち着いて過ごせるようなお気に入りの場所を作って過ごしてもらえるようにソファの配置など工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や持ち物は、入居前、家族に、なるべく使い慣れたなじんだものを持ってきていただくようお願いしており、居室で少しでも安心して過ごしていただけるように支援している。壁には家族の写真などを飾ったりと居心地の良い環境づくりに配慮している。	それぞれの部屋は個性的で、家族や職員が居室の飾りつけを行っている。タンスなど使い勝手が良いものや仏壇を持参している。その配置も本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きやすい環境づくりに心がけている。手すりやソファやテーブルなどを伝って自分で歩いてもらいできるだけ自身で動けるようにしている。キャスター椅子から固定椅子に替えたり、滑り止めを敷いたりして、自分で立ったり座ったりが安全にできるように事故防止に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	休息以外はリビングで過ごしてもらっており、そのリビングの見えるところに理念を貼っている。管理者、職員はその理念を共有し、笑顔や思いやりを忘れないように心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	月1回のふれあいサロンや地域の行事に参加している。近所の保育園とも交流会等で親睦を深めている。散歩中は顔を覚えてもらえるように積極的に挨拶をするようにしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。地域包括支援センター、民生委員、自治会長、男女共同参画委員、ご近所、ご家族に多く参加していただき施設内の出来事や状況を伝え情報交換している。地域や施設の問題点なども話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記記載の通り、会議での意見や情報交換内容は議事録に残し職員とも共有をはかりサービス向上に活かしている。また、課題を出し、改善方法を話し合いサービス向上に役立てている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らないことや、確認ごとがあるときは、その都度質問している。また、運営推進会議の参加の依頼をFAXしており可能な限り出席をさせていただくようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員を中心に、資料やDVDを用い「拘束をしない」をテーマに勉強会を行っている。職員は常に身体拘束をしない意識を持ち、互いに注意しあい改善に努めている。問題点が見つかったときには、すぐに管理者に報告し家族を含め話し合いをおこない、一緒にケアについて考えていっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会を定期的に行っている。また、ケアカンファレンスを開き、意見交換を行い入居者一人一人の現状を把握し、言葉かけや口調など特に気を付け気づきの場としている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加や勉強会を行い制度を学んでいる。また、行政からのパンフレット等用意し、ご家族からの質問等あれば助言、説明できるようにしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明し理解して貰うようにしている。その後も、不安や疑問点があれば、納得してもらえらるまで説明をしている。相談にはその都度応じ、改正時も同様に行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族、地域の方にも参加していただき意見交換をしている。玄関には意見箱を設置しており、面会時には職員からもたずねたりしている、意見や要望があれば、すぐに話し合い、必要であれば上司に報告し運営に反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや月1回の職員会議で意見があればいつでも出してもらい今後につなげている。ホーム長や管理者は、職員からの提案や意見を聞き運営に反映させている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状態や努力、向上心を把握し、それに応じて処遇へ反映している。勤務表から、無理のない勤務であるかの確認をし、緊急時にも対応できるような対策もしている。食事会を開き、職員の気分転換も図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別を理由に採用決定はしていない。面接時に話をしっかりと聞き、個性を尊重し、能力が発揮できるように配慮している。資格取得やスキルアップを勧め、人材育成に努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内での勉強会や外部研修に参加し、職員全員で共有している。介護をしているのではなく、出来ないところをお手伝いしていると考えている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会を作り、そこからの研修や勉強会、社外の研修情報を提供し、自発的または力量に合わせての参加を促している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にグループホームがほかに3つあり定期会議等で情報交換を行っている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人、ご家族と面談を行い、困っていることや不安に思っていることなどの把握に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時を含め、入居前、入居後と接遇に気を付け、話しやすい雰囲気づくりに努めている。いつでも来設していただき積極的に話を聞くようにしている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	アセスメントを十分に行い、入居前のサービ スの情報なども参考にして、その時々が必要 とされる支援を行えるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	人権を尊重し、介護する側が優位に立つので はなく、自己決定を優先した安心な生活を していただけるよう共に過ごし寄り添って支 えあう関係に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	情報交換を常に行い、ご本人とご家族が触れ 合える時間や事柄を考え、お誕生日会や行事 等の参加をお願いしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や情報から、面会や手紙でのやり 取り、電話での交流ができるよう支援して いる。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に観察を行い、孤立する方がいないよう に配慮している。また、入居者同士の良い関係 ができるように配慮し、職員の入居者への関 わりが偏らないようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退居されても電話で様子を伺ったり、依頼が あったご家族へは行事のお知らせをして いる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の行動などを見守りながら、どうしたいのか、何かしたいことがあるのかを考え、または聞いたりして、出来る限り本人の意向と自己決定を優先し支援している。会話の中からも本人のニーズの把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中から、今まで生活してきた昔話を聞き生活歴や生活環境を把握するように努めている。また、入居前のアセスメントで利用があったサービスの事業所からも情報を得ている。入居後も面会時に昔話を聞いたりしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることはできるだけ本人にしている、出来る事、出来ないことの見極めをしっかりと行っている。会話をしながら、状態観察を行い、小さな変化にも気づけるように心がけている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをしっかりと行って、心身状態の把握をしている。変化や課題をケアカンファシ、介護計画に反映している。また、本人やご家族の要望、意向に沿った計画を作成し、統一したケアができるようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の生活状況や変化や会話など「気づき」として、小さなことでも個別の記録に残している。申し送りや記録から情報を共有し、介護計画の見直しをしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画に沿っての行事もあるが、入居者の体調をみながら、出来るだけ楽しく過ごしていただけるよう、希望をきいて、外出やレクリエーションを行事として取り入れるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に出席していただいている民生委員や地域包括支援センターの委員等からの情報をもとに、施設外にも目を向け、地域の行事や四季を通しての祭りなど多くの人と交流をもって楽しく生活ができるようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を確認をし、ご家族の要望や希望に沿うようにしている。江下内科クリニック受診については無料で受診介助を行っている。それ以外の病院受診については、ご家族に連絡し、有料サービスで行っている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜勤専門の看護師と週1回の訪問看護により医療面での充実を図っている。質問、問題があれば相談しケアにつなげている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	近隣の病院には営業もかねて毎月訪問し関係づくりに努めている。入院中はソーシャルワーカーやご家族と連絡を取り合い現状報告や退院に向けての情報交換を行っている。退院が決まれば、アセスを取り注意点等確認をし、可能であれば、担当医からの説明の場に立ち合わせていただいている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し同意書を頂いているが、实际需要が生じた時にはご家族や主治医とも話し合い、連携を取り、住み慣れた施設での生活が継続できるように支援して体制を整えている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応できるよう、マニュアルを作成しており、定期的に勉強会を行っている。また、救急法講習会に出席し心肺蘇生等の体験の機会を持って、職員全員で共有するようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	慌てず避難誘導ができるように、年2回避難訓練を、入居者と一緒に行い、誘導方法、順番を確認している。また、消火器や火災通報装置の使い方など防災設備の再確認を行っている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人にあった声掛けをしている。勉強会も実施し職員研修を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、声掛けやスキンシップを行い、本人が何を望んでいるかを聞いたり、または注意深く読み取るように心がけている。意思疎通が困難な入居者には、表情等をみながら、本人の思いや希望を把握し支援するようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調や状態に合わせ、その日の気分や動きを見守りながら、本人のペースで無理のない生活が送れるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問理美容を利用している。希望があれば、パーマやカラーの注文も受けている。毎日の衣類・外出時などその時にあった洋服を選びおしゃれに気を付けている。季節に合わせて身だしなみを整え、本人の好み、自分らしさが出るようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回の行事食では、見た目やその季節感を味わっていただいている。食事は入居者にとって楽しみの一貫なので、外食にお連れし好きな物を選んで食べて頂いたりしている。また、本人の状態に合わせた食事形態を考え無理なく自分で食べられるように支援している。手作りおやつと一緒に作って食べている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスを考えカロリー計算されている。摂取量や水分量は記録し、個々の状態の把握に努めている。状態に合わせ、キザミ食、ミキサー食、軟飯と工夫し、少なくとも十分な水分量も好みの飲み物を用意したりして水分摂取に心がけている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後誘導し実施している。できる限り自分でしてもらい、磨き残しを確認し、必要に応じて職員が仕上げを行うようにしている。自力では困難な方は、声掛けしながら職員が行い、状態に合わせてスポンジブラシ等使用している。週1回の義歯のポリドント消毒を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が困難な方も二人介助等の工夫をし、日中は、トイレでの排泄に心がけている。夜間、おむつの方も、日中はリハパンで対処し、声掛け、誘導にて失禁をなくすように支援している。排泄時間や排泄間隔を記録し把握するようにしている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部にホットパックをあて温めたり、腹部のマッサージをしたりして対応している。また、繊維質の多いおやつ作りを考えて作ったり、好みの飲み物を用意して水分補給を行う様に心がけている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的に日中に入浴としているが、拒否のある方には、声掛けや誘導方法に工夫をし無理に勧めることはしないようにしている。また、その日の体調等を確認しながら、臨機応変に対応している。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や、状態に留意し、また、生活習慣を把握しその方の希望を聞きながら休息をしていただくように心がけている。足をあげたり、温めたりして安眠の支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の服薬表をすぐに確認できるようファイルしている。また、毎日服用している薬袋を紙に貼って掲示しており、一目で薬の種類がわかるようにしている。服薬セットは、日勤者、夜勤者と3人でチェックしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フェイスシートにより「入所前の生活状況」を把握し、また、本人やご家族からも情報を得て、役割や楽しみ事、気分転換になることなども把握して、その人らしく無理なく過ごしていただけるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を感じて頂けるような外出や外食の計画を立て外出支援を行っている。天気が良い日には、計画をしていなくても、希望を聞き、ドライブや買い物に出かけている。また、家族との外出や地域のふれあいサロンにも参加させていただいている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたい、自分で買い物をしたいという入居者は、家族と相談の上お財布を持って貰っているが、自己管理は困難になってきている。その方の必要とされるものがあるときは近くの店で職員と一緒に買物ができるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも電話してもらっている。家族と本人ともに携帯電話の使用の希望があれば持って貰い家族と連絡が取れるようにしている。また、年賀状は毎年出している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃、整理整頓を行い、季節を感じることでできる掲示物や入居者の写真などを飾り喜んでいただけるように工夫している。テーブルやソファの位置、座席も入居者の状態によって配置替えをしたりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いが心地よく過ごしていけるよう椅子の配置を考えている。一人になることにより心穏やかになれる入居者には仕切りを設置する等一人空間を作るようにしている。また、気の合う方と散歩やお話をする場所を提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年信仰されていた宗教やお仏壇、また、家族の写真やお手紙等居室に設置し、心が和やかに暮らせる空間作りをしている。動線を考え動作のしやすい位置や睡眠しやすい位置等本人と話しながら、環境整備をしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	簡単な案内や、説明書きを掲示することによって、自身で行動できるよう工夫している。また、椅子に滑り止めを敷いたり、取っ手のついている軽い食器を使用したり一人一人の身体機能を考慮しながら支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない